

## New Horizon 第2回 Lessons

### Lesson 2-1: 主語になる代名詞の使い分け

代名詞とは、名詞の代わりに使われる単語です。be 動詞の文の作り方について学ぶ前に、まずは主語になる代名詞について学んでいこうと思います。

#### 【英語でよく登場する代名詞】

私 / 私たち / あなた / あなたたち / 彼 / 彼女 / 彼ら / 彼女ら / これ / それ / あれ / これら / それら / あれら

<例> ハナコさん → 彼女      生徒たち → 彼ら・彼女ら      私と弟 → 私たち  
私の机 → これ・それ・あれ      3本のペン → これら・それら・あれら

#### 【主語となる英語の代名詞】

今回学ぶ、主語となる英語の代名詞は以下の11個。

I / you / we / they / he / she / it / this / that

私 → I    あなた・あなたたち → you    私たち → we    彼 → he    彼女 → she  
彼ら・彼女ら・それら → they    \*それ → it (ペットは he/she が主に使われる)  
これ → this (「この(形)」にもなる)    \*それ・あれ → that (「その・あの(形)」にもなる)

\*it / that は、両方とも「それ」と訳されることがあり、同じような意味で使われることも多い。

### Lesson 2-2: be 動詞の肯定文① (I / you / we / they)

英語には「be 動詞の文」「一般動詞の文」など様々な種類の文の形があるのですが、今回は文の主語(文章で基本的に「○○は」「○○が」にあたる部分)が I, you, we, they の時の be 動詞の肯定文について学んでいきます。

#### 【be 動詞の主な特徴】

- (1) 「存在」を表す。
- (2) = (イコール) の役割を果たすともいわれている。
- (3) 一般動詞(「食べる」「歩く」など日本語で言う動詞)がない文で使われる。
- (4) ここで覚える be 動詞は2種類(am/are)。「主語」によって使い分けされる。

#### 【be 動詞の肯定文：基本の形】

主語 + be 動詞 + ○○.

(意味: 「主語は○○です」「主語は○○でした」)

<○○の部分には「形容詞」「名詞」「形容詞+名詞」などが入る>

<例>     I            am            Wataru .     (私はワタルです)

<主語>     <be 動詞>     <固有名詞>

You            are            smart .     (あなたは賢いです)

<主語>     <be 動詞>     <形容詞>

### <be 動詞の種類：am / are>

#### (1) am

・主語が **I** の時に使われる。

・基本的な形： I am ~ (短縮形： I'm ~.)

<例> 私はヒカルです。 I **am** Hikaru.                   私は先生です。 I **am** a teacher.

#### (2) are

・主語が **you / we / they** の時に使われる。

(「My students = they」のように、上の代名詞に言い換えられる主語も含む)

・基本的な形： You are ~. (短縮形： You're ~.)           We are ~. (短縮形： We're ~.)

          They are ~. (短縮形： They're ~.)

<例> あなたは背が高いです。 You **are** tall.

          彼と私は忙しいです。 He and I **are** busy. (He and I = we)

          彼女らは良い生徒たちです。 They **are** good students.

## Lesson 2-3: 「一般動詞の文」と「be 動詞の文」

一般動詞とは、日本語でいう「動詞」のことを言います。つまり「食べる」「歩く」といった動作を表す単語です。これらの単語が入る文が「一般動詞の文」となります。

### 【一般動詞とは】

(1) 動作や状態を表す単語 (基本的に「う段」の音で終わる)

<例> 食べる / 飲む / \*好き / \*ほしい

〔\*日本語で言う『動詞』は基本的に「う段」の音で終わるが、like (好き) や want (ほしい) は例外。  
あえて言うのであれば「好む」「求める」となる。〕

また、英語の文章は (今の段階では)

「一般動詞が入らない文 (be 動詞の文)」と  
「一般動詞の入る文 (一般動詞の文)」とに分けられます。

### <一般動詞の入らない文 (be 動詞の文) の例>

私は医者です。           彼は背が低かったです。           あの学校は古くないです。

(日本語でいう「動詞」が入っていない)

<一般動詞の入る文（一般動詞の文）の例>

私は走ります。      彼女は英語を教えます。      彼はギターを弾きます。  
(「走る」「教える」「弾く」は、日本語でいう『動詞』)

**Lesson 2-4: 一般動詞の肯定文① (I / you / we / they)**

英語の文は「be 動詞の文」と「一般動詞の文」に分けることができ、更に「一般動詞」の文は2種類に分けることができます。これは、主語によって分かります。

**英語の文**

- ① be 動詞の文
- ② 一般動詞の文
  - (a) 主語が I, you, we, they (またはこれらの代名詞に置き換えられる単語) の場合  
→ 一般動詞の形が変わらない (今回練習!)
  - (b) 主語が he, she, it (またはこれらの代名詞に置き換えられる単語) の場合  
→ 一般動詞の形が変わる (今度練習)

**【一般動詞の肯定文① <I/you/we/they> : 基本の形】**

I  
You + 一般動詞 (+\*目的語) (+~) .  
We  
They

\*目的語=動作の対象となるもの

- <例> I run. (私は走ります)  
I study English. (私は英語を勉強します)  
【目的語 (study の対象) =English】  
They like <sup>(1)</sup>apples, too. (彼らも、りんごが好きです)  
【目的語 (like の対象) =apples】  
We play <sup>(2)</sup>the piano. (私たちはピアノを弾きます)  
【目的語 (play の対象) =the piano】  
Rei and I want this coffee. (レイと私はこのコーヒーが欲しいです)  
【目的語 (want の対象) =this coffee】

- (1) 「可算名詞」で一般的なことを言う場合、「**複数形**」が用いられることが多い。  
<例> They like apples. (彼らはりんごが好きです) (They like an apple. =×)  
I like blue cars. (私は青い車が好きです) (I like a blue car. =×)
- (2) 「楽器を弾く」「楽器を練習する」という場合、基本的に “**play the 楽器**”  
“**practice the 楽器**” の形になるので注意!

## 《注意事項》

日本語とは異なり、「一般動詞」と「目的語」の足される順番が違うので注意。

- ・日本語： 私は英語を勉強します。 （主語 + 目的語 + 一般動詞）
- ・英語： I study English. （主語 + 一般動詞 + 目的語）

## 【ポイント】

### 主語が入らない「命令文」

一般動詞の文章で、主語を入れないと「～して」「～してください」といった意味の命令文として使うことができます。

- <例> You study English. （あなたは英語を勉強します）  
Study English. （英語を勉強して）

自己紹介でニックネームを紹介する時などに Call me ○○（私を～と呼んでください）というのは、よく使われるフレーズなので、しっかり覚えておきましょう！

- <例> I'm David. Call me Dave. （私はデイビットです。デイブと呼んでください）

## Lesson 2-5: 前置詞① (to / in / from)

### 【前置詞とは？】

- (1) to / in / from などがある。
- (2) 日本語で「～に」「～で」「～から」と主に訳される。
- (3) 基本的に「前置詞＋名詞」の形で使われる。  
<例> 私の教室で = in my classroom （前置詞＋名詞）  
日本から = from Japan （前置詞＋名詞）
- (4) 前置詞を理解するポイントは前置詞のイメージすること。

<例> to = どこかに向かいたどり着くイメージ

in = 何かの中にあるイメージ



1. to = ～へ / ～に / ～まで <どこかに向かってたどり着くイメージ>

<例> I go to my classroom. （私の教室へ行きます）

We go to America. （私たちはアメリカに行きます）

**【例外 1】 ~ to school (学校に ~) <go to school / come to school など>**

「学校へ行く」「学校へ来る」というのを「通学」「登校」という意味で使う場合、基本的に『a/an (冠詞)』や『所有格』はつけない。そのため、“go to a school” や “come to my school” といった形にはならない。

**【例外 2】 go home (帰宅する) (go to home = ×)**

home は、名詞で「自宅」という意味もあるが、ここでは「\*副詞」として使われるため、前置詞は付かない（基本的に前置詞は名詞の前につくもの）。

\*副詞とは、動詞 / 形容詞 / 別の副詞などを修飾する。ここで登場する home は、動詞「行く」を修飾する「家へ」という意味になる。



**2. in = ~ (グループ・部屋・市町村・国などの中) に  
<ある程度大きなエリアやケースに入っているイメージ>**

<例> We are in Japan. (私たちは日本にいます)  
I am in Tochigi. (私は栃木にいます)

**3. from = ~から / ~出身 <どこかから出発するイメージ>**



<例> I am from Japan. / I come from Japan. (私は日本出身です)

**Lesson 2-6: 副詞**

「副詞」とは、動詞や形容詞などを説明する単語で、場所・方法・頻度などを表します。例えば、「時々」「いつも」「ここで」「とても」といったものがあります。また2つ以上の単語が繋がった「副詞句」（ここでは「句=グループ」と思ってもらえればOKです）というものもあります。大きな特徴として、

**副詞・副詞句の前には「前置詞」は基本的につかない**

ということ覚えておく必要があります。そして、副詞と副詞句は、文の最後に使われたり、文の途中で使われたりします。

＜文の後半に足される副詞・副詞句＞

副詞	意味
here	ここに / ここで
there	そこに / そこで / あそこに / あそこで
now	今
*(.) too (一般的に文の最後)	～も
every ～ (every day など)	毎 ～ (毎日など)

\*カンマが打たれない場合もある。また、同じ文であっても文脈によって意味が異なるので注意。

＜例＞ A: I play baseball. B: I play baseball, too. (A: 私は野球をします。 B: 私も野球をします)  
I play basketball. I play baseball, too. (私はバスケをします。私は野球もします)

＜例＞ We go there. (私たちはそこに行きます) <We go ~~to~~ there. = ✕>  
They like sushi, too. (彼らはお寿司も好きです)  
I study English every day. (私は毎日英語を勉強します) <I study English in every day. = ✕>

【ポイント！】

副詞・副詞句につけられる前置詞

from など、前置詞を足すことによって別の意味が足される場合は、前置詞を足せます。

＜例＞ We go from there. (私たちはそこから行きます)

2つ以上『副詞』『副詞句』が足される時の順番

前置詞の時同様、『副詞』『副詞句』『前置詞のフレーズ』が2つ以上登場する場合、決まったルールはないですが「場所」→「時」の順番で足されることが多いです。

＜例＞ We go there every day. (場所 → 時)

＜文の途中で足される副詞＞

副詞	意味
just	ただ ～ / ～だけ / たった ～
often	しばしば / たびたび
sometimes	時々 / たまに
always	いつも

【足し方】

文の途中で足される副詞は、「be動詞の文」と「一般動詞の文」とで入る場所が異なります。

be動詞の肯定文 = be動詞の後に足される

＜例＞ I am just hungry. (私はただお腹が空いているだけです)

一般動詞の肯定文 = 一般動詞の前に足される

＜例＞ We sometimes play soccer. (私たちは、時々サッカーをします)